



HMCは、思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等にわたる人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者による部局横断的な新たな研究協創のプラットフォームを目指しています。

09

2024 春夏



Humanities Center News Letters

オープンヒューマニティーズ基金
協働研究・公募研究活動報告
イベント実施報告
新刊紹介

ヒューマニティーズセンター（HMC）とは

人文学及び隣接諸分野における卓越した研究者により、部局横断的に新たな研究協創のプラットフォームを目指す連携研究機構。

その対象は思想・歴史・言語・文学・教育・芸術・建築・法律・政治・生活等、広範に及びます。



Ushioda Humanities Initiative (潮田ヒューマニティーズイニシアティブ)

潮田洋一郎氏の財政的支援によりHMCで展開される、新たな国際人文研究拠点。連携研究者はフェロー（兼務教員）としてHMCに所属。

Humanities Liaison (ヒューマニティーズリエゾン)

研究支援人材（URA）を配置し、既存の枠組みを脱してより広範に研究活動を展開していくことを目指します。

公募研究：個人研究者の海外連携等を支援
協働研究：部局横断型の研究を推進



オープンセミナー、リエゾントーク、
ブックレットを通じて、研究成果を発信



ヒューマニティーズセンター
Humanities Center

ロゴの四角形は「情報」を表しています。
また濃色のオレンジの四角形は「熟成した知識」を示します。各連携部局が連なり、情報を共有しながら、熟成した知識をHMCへ集約させるという理念を表現しています。

《社会と未来を開くオープンヒューマニティーズ基金》スタート！

— 人間とは何か、ともに考えるために —

オープンヒューマニティーズ基金は、新たなヒューマニティーズの問いと実践の場に、みなさんにも加わっていただきたいという思いから生まれました。私たちの目指すヒューマニティーズの活動を、研究者だけのものにせず、社会の共有物として有効に活かすために、みなさんのお力をぜひお借りしたいのです。



HMCの活動は、学内外の研究者コミュニティのみならず、社会の様々な人々をつなぐプラットフォームとして新しい役割を果たしつつあります。社会とのつながりを重視するパブリックヒューマニティーズは国外では注目を浴びつつあるように、社会との関わりはヒューマニティーズにとって本質的な課題であるといえます。

寄付をきっかけに、単なる資金援助ではなく、ヒューマニティーズというプラットフォームへの参加を意味するという側面を重視し、社会に開かれたヒューマニティーズの構築の実現に向けて、皆様より温かいご支援を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。

特 典

HMC フェロー懇談会ご招待

オープンセミナーとリエゾントークのアーカイブ動画ご視聴*

通常は入手できない HMC ブックレット冊子

HMC ゲッツ（ノート、ペン等）

*権利保護のため非公開部分が含まれる場合があります

詳細は、こちらのWebサイトをご覧ください



協働研究



HMCの立案による3～4年で行う協働研究。個人研究の「公募研究A」、これまでの「企画研究」、リエゾン部門で行っていた「アジアの未来」研究プロジェクトを継続発展させ、2022年10月より下記の研究がスタートしました。今期の協働研究では、メンバーに学内外の研究協力者や博士課程所属の研究補助者が加わっていることも特色のひとつ。これには学内外のリエゾンを目指すHMCスタッフの思いが込められています。名称こそ協力者、補助者ですが、プロジェクトに欠かせない主力メンバーとして活躍しています。

※過去の企画研究の報告書は、HMCのウェブサイトからご覧いただけます。

「顔」は何を語るのか——過去から未来へ

研 究 代 表：永井 久美子（総合文化研究科）

研 究 分 担 者：高岸 輝（人文社会系研究科）、梶谷 真司（総合文化研究科）

鈴木 敦命（人文社会系研究科）、出口 智之（総合文化研究科）

中村 覚（史料編纂所）、笠原 真理子（HMC助教）

水野 博太（HMC特任研究員）

学内研究協力者：平澤 加奈子（史料編纂所）

学外研究協力者：上田 竜平（京都大学人と社会の未来研究院）

藤田 弥世（京都大学学術研究展開センター）

鈴木 親彦（群馬県立女子大学）

本協働研究は、現実の「顔」のほか、文学や絵画に描かれた「顔」に対する感覚や評価が人々のものの見方や考え方にどのような影響を及ぼし得るのかを、学内外の多様な研究者が集い、多様な観点から追究しています。2023年1月のキックオフ以来、オンライン・対面で会合を重ねてきたのみならず、これまで同年3月・6月・12月および2024年3月と合計4回のオープンセミナーを実施したほか、2023年の日本心理学会でも研究成果を発表するなど、積極的な研究成果の発信も行っています。

現代作家アーカイブの構築と発信

研究代表：武田 将明（総合文化研究科）

研究分担者：阿部 公彦（人文社会系研究科）、阿部 賢一（人文社会系研究科）
中島 隆博（東洋文化研究所）、村上 克尚（総合文化研究科）
逆井 聡人（総合文化研究科）、中里 晋三（HMC特任研究員）

本企画は、国内外の多くの人々に現代の日本語文学の意義を伝えることを目的として、現役の作家の生の声を記録（アーカイブ）に残すものです。アーカイブの制作は2015年に始まり、高橋源一郎、古井由吉、瀬戸内寂聴、筒井康隆、小川洋子、川上弘美など、現代を代表する書き手のインタビューを収録・配信してきました（HMCによる助成は2018年～）。飯田橋文学会（作家の平野啓一郎氏を中心とする、作家・研究者・翻訳家・編集者などの集まり）と、HMCをはじめとする本学の複数部局の協力のもと、協働的にアーカイブの構築と発信を行い、学内と学外、作家と読者の垣根を超えた幅広い交流を実現させます。3ヶ月に一度のペースで実施する作家へのインタビューは、2月に第28回「中沢けい」、5月に第29回「高樹のぶ子」が実施されました。昨年12月には 現代作家アーカイブ 特別篇「それぞれの言葉で語り合う―大江健三郎の文学をめぐる」が開催されました。



大江健三郎氏寄託資料に関する基礎的研究

研究代表：阿部 賢一（人文社会系研究科）

研究分担者：塚本 昌則（人文社会系研究科）、阿部 公彦（人文社会系研究科）
王寺 賢太（人文社会系研究科）、大向 一輝（人文社会系研究科）
村上 克尚（総合文化研究科）、武田 将明（総合文化研究科）
河野 龍也（人文社会系研究科）、和田 真生（HMC特任研究員）
学外研究協力者：安藤 宏（放送大学客員教授）

本学出身の作家大江健三郎氏の原稿が2021年1月に人文社会系研究科に寄託されたことを受け、自筆原稿の基礎的研究・調査が開始されました。同氏についての文献学的研究は研究基盤整備も含めほとんど手つかずの状態にありましたが、これまでの研究で1万8千枚に及ぶ自筆原稿のデジタル化、森昭夫氏の寄贈図書のデータベース化が進められ、2023年9月に「大江健三郎文庫」

が発足、HPでの「書誌情報データベース」公開もはじまりました。大江健三郎氏の著作と関連文献について、著書、初出雑誌の掲載情報、自筆原稿に関する情報を組み合わせる検索できる画期的なデータベースで、どなたでもご利用いただけます。*

これからさらに、大江文学の多様な可能性の探求、文字資料のDX化における問題の検討といった学術研究面を発展させます。今年度はセミナーのほかシンポジウムも開催予定。

*大江文庫ご利用の際は、事前に専用フォームより申請が必要です。詳細はHPをご覧ください。<https://oe.l.u-tokyo.ac.jp/>

開かれた人文学のための文化資源デジタルプラットフォーム

研 究 代 表：中村 雄祐（人文社会系研究科）

研 究 分 担 者：大向 一輝（人文社会系研究科）、中村 寛（史料編纂所）

笠原 真理子（HMC助教）

学内研究協力者：真鍋 陸太郎（工学系研究科）

学外研究協力者：平 諭一郎（東京藝術大学未来創造継承センター）

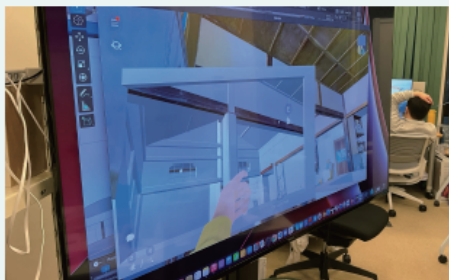
小川 潤（国立情報学研究所コンテンツ科学研究系）

杉本 史子（東洋文庫）

研 究 補 助 者：関 慎太郎（人文社会系研究科）

計算の高速化、計算機のコモディティ化が同時に進行する今日では、人や物の状態・変化の測定、データ蓄積・計算・可視化が容易になり、デジタル技術を用いた多様な文化資源の研究や活用が進んでいます。しかし、特にネットワーク化されたデジタル技術は汎用技術であるがゆえに、ある程度までは各領域の目的に応じたカスタマイズが可能であるかわりに、蓄積されたデータや成果物の相互連携が新たな課題となっています。

この協働研究は、その課題に取り組むべく、学内・学外の研究者と幅広く連携し、文書や文物、遺跡、舞台装置などのデジタルデータを仮想的な3次元空間内に配置し、時空間や意味空間などを追求するためのオープンな文化資源デジタルプラットフォームの構築に向け



た基礎研究を行います。具体的には「稻荷湯長屋プロジェクト」「東京大学生協中央食堂プロジェクト」を2本の柱に据えており、稻荷湯長屋と中央食堂の3Dスキャンにもとづく仮想空間の構築に取り組み、定期的にミーティングを重ねています。人文情報学、文化資源学はもちろん、建築学、都市工学、まちおこし、VRなどいろんな視点からのアイデアが交錯し合い、いよいよ佳境に入りました。初夏のお披露目に向けて、ただいま準備中です。

アジアの都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出

研 究 代 表：松田 陽（人文社会系研究科）

研 究 分 担 者：菅 豊（東洋文化研究所）、本田 洋（人文社会系研究科）

祐成 保志（人文社会系研究科）、和田 真生（HMC特任研究員）

祝 世潔（HMC特任研究員）

研 究 補 助 者：雷 婷（総合文化研究科）、鄺 夢茜（総合文化研究科）

LEE Kah Hui（人文社会系研究科）、強谷 幸平（人文社会系研究科）

青木 蘭（人文社会系研究科）

この研究プロジェクトは、現在のアジアの都市における過去の位置付けを探ることを通して、その未来を考えようという試みです。

急速に都市への人口集中が進行する今日のアジアの都市では、開発事業が至る所で行われ、街並みが恒常的に刷新されます。同時に、そうした目まぐるしい変化に逆らうかのように、過ぎ去った時代が集団的に懐古・追慕・理想化され、ノスタルジアを核とした都市遺産が新たな社会的・商業的活動を誘発しています。これらの活動は過去志向であるように見えて、過去を意識しながら未来をつくり出すという意味で、実は未来志向です。本研究では、中国、韓国、台湾、シンガポールなどの都市空間において、過ぎ去った時代に対するノスタルジアが有形・無形の文化遺産の創出を通していかに表出されているかを多角的に考察します。昨年2月に韓国から研究者を招きノスタルジアと観光化を考えるワークショップを実施しました。7月には、上海のノスタルジアをテーマにした公開セミナーを開催予定です。



フルインクルーシブな学校作りへの挑戦：福島県双葉町での実践

研 究 代 表：大塚 類（教育学研究科）

研 究 分 担 者：梶谷 真司（総合文化研究科）、山名 淳（情報学環）

ライラ・カセム（総合文化研究科）、中里 晋三（HMC特任研究員）

東京電力福島第一原子力発電所が立地する福島県の大葉町では、数十名の児童生徒が帰町を目指しいわき市で避難生活を続けています。数年後の大葉町での学校建設を視野に、対象者も、コンセプトも、立地も、建物もすべてゼロからの学校案に着手したところでは。

多様な子どもたちだけでなく、保護者、地域の人々、地域外の関係者といったすべての人々がコミットできるフルインクルーシブな学校作りに必要なのは何か。本協働研究では哲学と教育学の観点から、大葉南北小学校と大葉中学校をフィールドとして実践的に解明するとともに、得られた知見を実際の学校作りにも活かすことを目指します。

2023年12月に東京大学ほかの大学生、院生と、いわき市の小中学校で「理想の学校」をテーマにワークショップを実施しました。また2024年2月にメンバーが大葉町を訪問し、町の現状について理解を深めるとともに、3月にキックオフシンポジウムをオンラインで開催しました。



公 募 研 究



(A) 個人研究

連携部局所属教員を対象とする公募制度を通じて、思想、歴史、文学、教育、芸術、建築、生活等にわたる人文学および隣接諸学分野に関して、国外から研究者を長期間招聘して行なわれる共同研究、または個人で行なわれる研究です。皆さまの研究にぜひご活用ください。次回の募集はHPでご案内いたします（7月頃予定）。

現在採択中の研究は以下の6件です。〈五十音順〉

（研究期間：2023年10月～2024年9月）

「ロマン主義的表象としてのテムズ川と橋のある都市景観 — 版画の流通を通じた景観意識の日英比較」

大石 和欣（総合文化研究科）

「カール大帝・ルートヴィヒ敬虔帝治下のフランク王国における法の多元性(768-827 年)：法・規範テキストのコンピレーションを手掛かりに」

菊地 重仁（人文社会系研究科）

「児童の民族的・文化的多様性に対応する学校づくり — 都内小学校における教員・保護者に対するインタビュー」

高橋 史子（総合文化研究科）

「詩の作られる場所——ヴァレリーとメルロ＝ポンティの詩学講義」

塚本 昌則（人文社会系研究科）

「パフォーミングアーツにおけるエンパシー：能楽、前衛、ロボット演劇」

土肥 秀行（人文社会系研究科）

「津島佑子の文学における死者、動物、環境」

村上 克尚（総合文化研究科）

オープンセミナー



公募研究、企画研究に参画しているフェローを中心に随時セミナーを開催しています。昨秋、第100回を迎えました！ 一般公開形式、参加無料。最新情報はHP、SNSでお知らせいたします。皆さまのご参加を心待ちにしております。とはかくも幅広く奥深い！ 過去に実施されたオープンセミナーのアーカイブ映像は、オープンヒューマニティーズ基金をご支援いただいた方に限定公開しております。



第98回 2023年11月6日

建築教育・まちづくりとアナログ&デジタル文化資源 報告：

藤本 貴子（法政大学デザイン工学部建築学科 教務助手、認証アーキスト）
「建築教育におけるアーキストの役割とデジタル技術」
真鍋 陸太郎（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授（兼任）
大学総合教育研究センター 准教授）

「まちづくりとコミュニティ・アーカイビングでのアナログとデジタル」
ディスカッサント：

中村 雄祐（東京大学人文社会系研究科文化資源学研究専攻 教授）

※東京大学の人文・社会科学組織が主催する研究月間【人文学と社会科学「ことばと社会」
企画の一環として行われました。



第99回 2023年11月10日

現代中国における輿論と情報

登壇者：

周 俊（同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科）

「中国共産党の秘密主義の起源と米中諜報戦」

鄭 成（兵庫県立大学環境人間学部）

「微信から見た中国社会の輿論分析」

河野 正（国士舘大学 21世紀アジア学部）

「アメリカ国立公文書館所蔵資料から見る対中国宣伝」

共催：東京大学中国学イニシアティブ「現代中国の歴史的起源」部会

※東京大学の人文・社会科学組織が主催する研究月間【人文学と社会科学「ことばと社会」
企画の一環として行われました。



第100回 2023年11月17日

図書館の余白：Library, Poetry

会場：東京大学本郷キャンパス総合図書館別館（ライブラリープラザ）・

Zoom オンライン

登壇者：

坂井 修一（東京大学附属図書館長・東京大学大学院情報理工学系
研究科 教授・歌人）

大森 晋輔（東京藝術大学附属図書館長・東京藝術大学音楽学部 教授）
ディスカッサント：

齋藤 希史（HMC 機構長・東京大学人文社会系研究科 教授）

※東京大学の人文・社会科学組織が主催する研究月間【人文学と社会科学「ことばと社会」】
企画の一環として行われました。



第101回 2023年12月1日

「顔」は何を語るのか：文学の読み方と「顔」

報告者：

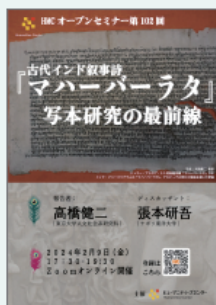
出口 智之（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

永井 久美子（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

ディスカッサント：

高岸 輝（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）

石井 悠加（四国大学文学部 講師）



第102回 2024年2月9日

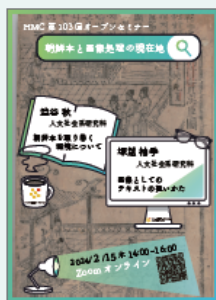
古代インド叙事詩「マハーバーラタ」写本研究の最前線

報告者：

高橋 健二（東京大学人文社会系研究科）

ディスカッサント：

張本 研吾（ナポリ東洋大学）



第103回 2024年2月15日

朝鮮本と画像処理の現在地

報告者：

澁谷 秋（東京大学人文社会系研究科 助教）

「朝鮮本を取り巻く環境について」

塚越 柚季（東京大学人文社会系研究科 助教）

「画像としてのテキストの扱いかた」



第 104 回 2024 年 3 月 7 日

ロボット能序説 ボローニャ大学芸術学科ラボでの実験を交えて

Il nō robotico

講演者：

マッテオ・カザーリ (ボローニャ大学芸術学科)

コメンテーター：

吉田 寛 (東京大学人文社会系研究科)

通訳とコメント：

土肥 秀行 (東京大学人文社会系研究科)

共催：東京大学南欧語南欧文学研究室



第 105 回 2024 年 3 月 1 日

キックオフイベント「フルインクルーシブな学校作りへの挑戦：福島県双葉町での実践」

登壇者：

プロジェクトメンバー 大塚 類 (東京大学大学院教育学研究科)、

山名 淳 (東京大学大学院情報学環)、梶谷 真司 & ライラ・カセム (東京大学大学院総合文化研究科)、中里 晋三 (東京大学 HMC)

学生メンバー 丹伊田 真央 & 岩田 俊亮 (東京大学大学院教育学研究科)

ゲスト 双葉町教育委員会のみなさん



第 106 回 2024 年 3 月 21 日

橋が築く都市景観 —— ターナーとロンドンのウェストミンスター橋

発表者：

大石 和欣 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)

コメンテーター：

アルヴィ宮本なほ子 (東京大学大学院総合文化研究科 教授)



第 107 回 2024 年 3 月 19 日

死者・動物・環境 —— 津島佑子『寵児』のクィア・エコフェミニズム

会場：東京大学駒場キャンパス 18 号館 4 階コラボレーションルーム1・Zoom オンライン

発表者：

村上 克尚 (東京大学大学院総合文化研究科 准教授)

コメント：

木村 朗子 (津田塾大学学芸学部 教授)



第 108 回 2024 年 3 月 25 日

解読・公家列影図——血筋・才能・個性と鎌倉時代のキャラクターデザイン

発表者：

石井 悠加（四国大学文学部 講師）

司会・ディスカッサント：

永井 久美子（東京大学大学院総合文化研究科 准教授）

ディスカッサント

高岸 輝（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）

黒田 智（早稲田大学社会科学総合学術院 教授）

上田 竜平（京都大学 人と社会の未来研究院 助教）



第 109 回 2024 年 4 月 12 日

8・9 世紀のフランク王国における法的多元性について考える

発表者：

菊地 重仁（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授）



第 110 回 2024 年 5 月 8 日

詩と政治——ヴァレリーとブランショをめぐる

司会：齋藤希史（東京大学大学院人文社会系研究科）

登壇者：

山田広昭（東京大学名誉教授）

郷原佳以（東京大学大学院総合文化研究科）

塚本昌則（東京大学大学院人文社会系研究科）

※特に記載のない回はHMC主催、オンライン開催。

※報告者等の所属はすべて開催当時のものです。

※開催決定時期の都合上、一部、実施日程と回数が前後しております、ご了承ください。

リエゾントーク



「つながる人文学」をテーマに、HMC スタッフが企画・運営する学術的討論の場。

第8回 2023年10月28日

HMC リエゾントークⅦ：境を越える人文学

会場：東京大学本郷キャンパス国際学術総合研究棟内文学部三番大教室・Zoomオンライン

報告者：

棚瀬 あずさ（東京大学総合文化研究科准教授）

翻訳できない言葉が翻訳されるとき——19世紀、パリ、そして〈辺境〉の詩人たち

石川 真奈実（東京大学総合文化研究科博士課程）

「物語」と「小説」の違いはどこにあるだろう？——現代における「物語」の可能性をめぐる

小田島 梨乃（東京大学総合文化研究科博士課程）

カレンダーは科学？非科学？——暦の抱える「二面性」

笠原 真理子（HMC助教）

テキストを飛び出して考えよう——多次元的オペラ演出の未来



第9回 2023年11月9日

リエゾントークⅨ：つなぐ・つながる人文学 —教育研究と連携の未来—

会場：東京大学駒場キャンパス 21KOMCEE West レクチャーホール・Zoomオンライン

登壇者：

森山 工（東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター（HMC）副機構長・

前東京大学総合文化研究科長・東京大学総合文化研究科教授）

秋山 聡（前人文社会系研究科長・東京大学人文社会系研究科教授）

長木 誠司（東京大学連携研究機構芸術創造研究機構（ACUT）前機構長・東京大学名誉教授）

齋藤 希史（東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター（HMC）機構長・東京大学人文社会系研究科教授）



連携をキーワードに、人文学の連携研究機構と主管部局で機構長、研究科長を務めた四名の豪華メンバーが顔を揃え、人文学の未来について語りました。

※東京大学の人文・社会科学組織が主催する研究月間【人文学と社会科学「ことばと社会」】企画の一環として行われました。

イベント NEWS

東大生協×HMC包括連携協定が締結されました！

2023年12月、HMCと東京大学消費生活協同組合は、相互の連携を強化し書籍文化の深化と振興を図ることを目的とした包括連携協定を締結。これを記念して締結式・記念座談会を開催。「書籍文化をひらく」をテーマに、東大生協理事長、駒場図書館館長、東大附属図書館副館長、東大生協副理事長を務める先生方、HMC機構長そして東大生協専務理事が一堂に会し、書籍文化の歴史と未来への可能性について熱く語る、たいへん稀な座談会が実現しました。



東大生協×HMC包括連携協定締結式・記念座談会

日程：2023年12月4日

会場：東京大学本郷キャンパス 第二食堂建物2階 第二食堂ホール・Zoomオンライン

登壇者：石田淳（東大生協理事長、駒場図書館館長）、齋藤希史（HMC機構長）

苅部直（東大附属図書館副館長、HMC運営委員）、中島達弥（東大生協専務理事）

司会：中村雄祐（東大生協副理事長）

HMCでは、毎回のオープンセミナーに合わせて登壇者による参考文献をHPでご紹介。東大生協の本郷書籍部では、これと連動した特集コーナーが設置されています！学生・院生の皆さんにも参考になること間違いありません。

研究月間 人文学と社会科学「ことばと社会」に参加しました！

昨年11月、東京大学の人文・社会科学組織が主催する研究月間として、学内の人文科学に関する組織が学術イベントを集中開催。HMCを含む近年発足した人文社会科学の研究・教育組織がゆるやかにつながる「人文社会科学系組織連絡会議」共催で行われ、HMCでは3本のオープンセミナーと1本のリエゾントークを実施しました。

参加組織（設立順）：ヒューマニティーズセンター（2017年7月）、アジア研究図書館（2018年4月）、東京カレッジ（2019年2月）、東アジア藝文書院（2019年3月）、現代日本研究センター（2020年7月）

共 催 イ ベ ン ト

TCJSブックトークシリーズ 万葉集と帝國的想像

日程：2023年11月30日

登壇者：トーキル・ダシー（カリフォルニア大学ロサンゼルス校アジア言語文化学科 教授）

司会：齋藤 希史（東京大学大学院人文社会系研究科）

現代作家アーカイヴ 特別篇「それぞれの言葉で語り合う——大江健三郎の文学をめぐって」

日程：2023年12月16日

会場：東京大学駒場キャンパス1号館2階159教室

登壇者：市川 沙央（作家）、岩川 ありさ（早稲田大学 准教授）、菊間 晴子（東京大学 助教）

主催：飯田橋文学会、東京大学ヒューマニティーズセンター（Ushioda Humanities Initiative）、
UTCP（東京大学大学院総合文化研究科附属共生のための国際哲学研究センター）

Workshop: Themes from Priest

日程：2024年1月21日

会場：東京大学駒場Iキャンパス18号館4階コラボレーションルーム1

登壇者：グレアム・プリースト（ニューヨーク州立大学）、フィリポ・カサッティ（リーハイ大学）、
大森 仁（東北大学）、藤川 直也（東京大学）

オーガナイザー：藤川 直也（東京大学）

ニューヨーク市立大学のグレアム・プリースト教授をお招きし、真矛盾主義、矛盾許容論理、非存在対象の理論といったプリースト教授の哲学における主要な主題について議論するワークショップが開催されました。

※公募研究(A)「真矛盾主義的語用論の構築と応用」（研究実施者：藤川直也）の一環として行われました。

第9回人文・社会科学系研究推進フォーラム JINSHA kaleidoscope ——人社系研究のコアバリューを引き出す研究支援のあり方とは

日程：2024年3月7・8日

会場：鉄門記念講堂（オンライン配信あり）・医学部図書館333会議室

主催：東京大学リサーチ・アドミニストレーター推進室

共催：東京大学ヒューマニティーズセンター、大阪大学 経営企画オフィスURA部門、京都大学 学術研究展開センター、筑波大学 URA研究戦略推進室、琉球大学 研究推進機構研究企画室、早稲田大学 研究戦略センター、北海道大学 大学力強化推進本部研究推進ハブ統合URA研究マネジメン

トステーション、横浜国立大学 研究推進機構、中央
大学 研究推進支援本部、広島大学 未来共創科学
研究本部研究戦略部研究戦略推進部門、東北大学
研究推進・支援機構リサーチ・マネジメントセン
ター、新潟大学 経営戦略本部UA室、神戸大学 学術
研究推進機構学術研究推進室
後援：株式会社エッセンス、一般社団法人デサイロ



3月8日、イベント当日は時な
らぬ積雪。外の寒さとは打っ
て違って会場内ではURAた
ちが熱く盛り上がりました。

万華鏡を覗いたように多様な人文・社会科学系研究の持つ価値の形を引き出す研究支援のあり
かたを考えるフォーラムが、リサーチ・アドミニストレーター推進室の主催によって開催されました。
二日間にわたるプログラムの一日目に、機構長の齋藤が「人社系研究のコアバリューとは一対話の
場から見えるもの」と題して講演を行いました。

今年度より諮問委員会が設置されました。定期的に諮問委員会を開き、HMCの活動をより充実
させるためご意見をいただきます。

委員は以下の5名です。(敬称略・五十音順)

小島憲道（東京大学名誉教授）、佃一輝（一茶庵宗家）、丁莉（北京大学教授）、福田裕穂（秋田
県立大学理事長・学長）、LAFFIN, Christina（プリティッシュコロンビア大学准教授）

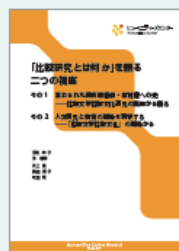
HMC Booklet シリーズ

HMCでは、人文学及び隣接諸分野に関する新たな研究協創を目指した「Humanities Center Booklet シリーズ」を刊行しています。東京大学学術機関リポジトリUtokyo Repositoryでも公開中。東京大学総合図書館、駒場図書館でもご覧いただけますので、ぜひお手にとってみてください。

ダウンロードは
こちらから▶



新 刊



Vol.21

「比較研究とは何か」を語る二つの視座

今橋 映子、韓 程善、井上 健、西田 桐子、町田 樹

2023年5月26日発行／ISSN：2434-9852



Vol.22

東アジアで考える開発学——日本の援助実践を素材に

佐藤 仁、汪 牧耘、KIM Soyeun、MAEMURA Yu Oliver

2023年12月20日発行／ISSN：2434-9852



Vol.23

トランプとかまいたち

藤川直也

2024年3月15日発行／ISSN：2434-9852

HMC チャンネル



YouTube HMC チャンネル更新中!

「人文学を語る!」シリーズをYou Tubeで公開しています。人文学とは何か?という大きな問いについて、フェローの先生方がそれぞれのスタイルで語る貴重なインタビュー。大学の講義でもなかなか巡り会えないかもしれません。聞き手は齋藤機構長。学生や研究者にとって刺激になること請け合い。大学スタッフの皆さまにもぜひ見ていただきたいシリーズです。先生方がどんなことを胸に研究しているか、覗いてみませんか?



オープンセミナー、リエゾントークのアーカイブ映像も随時アップ。オープンヒューマニティーズ基金を通じてご支援いただいた方に限定公開しています!

Staff 雑感

春になったのでSNSにもキャンパスの花々の写真が増えました。Xのフォロワー数も2,000人が近くなってきたので今からソワソワしています。今年度はいくつか大きな原稿があるので、メ切に間に合うように頑張ります…
(笠原 真理子)

HMCオープンセミナーがあつという間に110回を迎え、HMCイベントのメール登録者数も4,000人以上になりました！今年度に新しい企画の発足が…？楽しみにしながら新企画に着手しています！
(祝 世潔)

HMCのスタッフとして早いもので4年目になりました。昨年は私がお世話になっている方々とともにフルインクルーシブな学校作りをめざす協働研究をスタートさせることができました。今後の展開について非常にたのしみです。
(中里 晋三)

このたび東京大学而立賞（出版助成）を頂き、ようやく、ようやく、ようやく単著刊行の見込みが立ちました（仮題：「支那哲学」の誕生——東京大学と漢学の近代史）。順調にいけば東京大学出版会より年度内出版の予定です。
(水野 博太)

今年度はHMC第二期とともにスタートした協働研究がひと区切りを迎えます。少し先になりますが成果をまとめたブックレットも出る予定です。HMCでは常に新たな研究企画を模索中、皆さまからのお声がけも歓迎いたします！
(和田 真生・編集)

